

令和5年度 高等部研究について（中間まとめ）

I 研究テーマ

「生涯にわたって学び、成長しようとする力を高める授業実践・指導実践」 ～授業記録シートを活用した個の見取りと評価～

II 研究テーマ設定の理由

1 学校教育目標・学部教育目標から

本校では学校教育目標として「児童生徒一人一人が個性と能力を発揮し、可能性を最大限に高め、自立的・主体的な生活を送る」を掲げており、高等部においてもこの目標を目指し、実態に合わせて学部教育目標を定めている。高等部の学部教育目標と経営方針を【表1】に示す。

【表1】本校高等部の教育目標と経営方針

学部教育目標
(1) 自ら学び、明るく豊かで活力ある生活を営むことができる。 (2) 様々な体験的学習や活動をとおして社会生活に必要な力を身に付けるとともに、自らの進路を考え自己選択、自己決定ができる。 (3) 自ら健康や安全を考えて生活することができる。
経営方針
(1) 自立した生活を目指し、将来の社会生活に必要な知識及び健康・安全に関する知識について自ら学ぶ姿勢を育てる。 (2) 生徒の円滑な集団参加を進めるために重複障害学級と通常学級の計画的な交流を推進する。 (3) 地域の学校や施設等との交流を行うことにより、主体的な社会参加の基盤作りを行う。 (4) 個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成をとおして、生徒一人ひとりの実態及び教育的ニーズの的確な把握と必要な支援を行う。 (5) 生徒のニーズと個々の自立に向けた教育課程を検討する。 (6) 家庭・寄宿舍・学園・関係機関との共通理解と支援の一貫性を図る。

高等部では、卒業後のそれぞれの進路に向けて生徒一人一人が主体的に豊かで充実した生活を送ることを目指して、日々の教育活動に取り組んでいる。特に、卒業後の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に学習する「作業学習」を中心に教育課程が組まれている。

2 高等部の授業づくり（作業学習）から

千葉大学教育学部附属特別支援学校教育実践研究会（2018）は、「高等部にあっては、現実の社会とのかかわりを強め、卒業後の生活に自然につながる学校生活となるようにします。『働く生活』を重視して、一年間の学校生活を計画します。」としており、学習指導要領解説では「作業学習は、作業活動を学習活動の中心にしながら、児童生徒の働く意欲を培い、将来の職業生活や社会

自立に必要な事柄を総合的に学習するものである。」としている。これらのことから、高等部が目指す生徒像に作業学習をとおして近づくことができると期待することができる。

また、高等部作業学習の指導計画には【表2】が挙げられている。加えて、令和2年度の学部研究において高等部職員で確認している本校高等部が作業学習において大切にしていることを【表3】に示す。

【表2】高等部作業学習の指導計画

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">(1) 社会生活に必要な知識・技能・態度を身に付け、将来の社会生活を具体的に理解できるようにする。(2) 地域との関わりを重視した作業活動の展開をとおして、生産や販売活動など作業する喜びや成就感を味わわせ、働く意欲を喚起する。(3) 生徒が共同で取り組むことにより、一人ひとりが役割意識をもち、主体的に作業に取り組む態度を養う。 |
|--|

【表3】本校高等部の作業学習で大切にしている点

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">(1) 「働く」ことを学校生活の中心に据え、「作業学習」に取り組む。(2) 生産や販売活動をとおして卒業後の「働く」意欲を高められる授業づくり。(3) 生徒同士協力をしたり、地域と関わったりする経験をとおして必要な知識・技能・態度を身につけられる授業づくり。(4) 個に目を向けた目標設定と評価を生かした授業づくり。 |
|---|

3 これまでの学部研究から

前次研究において高等部では、各教科等を合わせた指導の指導形態である「作業学習」に焦点を当てた授業実践をした。主体的に学ぶ姿を目指して、高等部作業学習における生徒の具体的な実態や様子から「育成を目指す資質・能力」を整理した。また授業記録シートを活用し、個人の目標、目標達成のために考えられる「できる状況づくり」を具体的にし、授業づくりに取り組み、一定の成果を得ることができた。前次研究の成果と課題を以下に示す。

(1) 成果

① 高等部作業学習における「育成を目指す資質・能力」の明確化

高等部作業学習における「育成を目指す資質・能力」について共通理解することで、単元や個人の目標について3観点に沿って具体的に設定できた。このことで、作業班内の指導者間で目指す方向性が一致した統一された指導につながり、生徒については落ち着いて作業に集中することやスムーズな指示の受け入れにつながった。

② 活動を教科で捉える視点

授業記録シートを活用し、生徒の活動内容について各教科を意識した視点をもつことで、指導者が生徒の具体的な姿を捉え、目標設定や手立てを共有した。手立てや支援方法を整理し、作業班の指導者が共通した観点で生徒の指導を繰り返した。目標を明確にしたことで生徒の

主体性や自信につながった。

③ 「ヒト」「モノ」「コト」で考える「できる状況づくり」

授業記録シートの個人の活動内容についての支援を「ヒト」「モノ」「コト」に分けて考えた。具体的にシートに書き出すことで、一つの活動に対しての支援を細分化し、具体的な内容になったことで教師間のズレのない支援の共有につながった。

生徒への支援が細かい部分まで統一されたことでスムーズに活動に取り組む生徒やコミュニケーションなどそれぞれの目標の達成につながった。

④ 授業記録シートの活用

学部研究会の中で作業班ごとに授業記録シートの内容についてのワークショップを行った。授業記録シートを通して指導者全員が個々の生徒の課題や目標について共有し、生徒の実態について情報交換したことで生徒を多面的に捉え、生徒一人一人の具体的な課題と改善点をイメージすることにつながった。ワークショップを通して次の授業へ活かすことができた。

(2) 課題

① 高等部作業学習における「育成を目指す資質・能力」の定着

高等部作業学習における「育成を目指す資質・能力」について三つの観点を示したが、まだ定着には至っておらず、目標設定や評価の視点に活用できなかったというアンケート結果が見られた。目標設定、評価について「育成を目指す資質・能力」の観点を活用していきたい。

② 授業記録シートを活用した授業づくりのPDCA サイクル

高等部研究のアンケート結果の中に「一つの単元で完結せずに、次の単元に活かすことが大事」「授業に対して後追いで作成してしまった」という回答が見られた。今回学部研究会を機会に授業記録シートの作成を行ったが、本来、日常的に活用し、次の授業、次の単元へとつなげていくことで最大の効果が得られるものと考えている。生徒の実態や活動内容など日常的に記録できるようなシートの活用方法を考えていく。

以上のことから、本次研究においては個に焦点を当てた目標設定や評価を実践し、具体的な子どもの姿を捉えたより効果的な授業づくり、「観点別」や「できる状況づくり」を意識しやすく、授業改善に活用できる授業記録シートの工夫を取り入れた「作業学習」の実践をとおして、より学校教育目標・学部教育目標に掲げられる生徒像に迫りたい。

Ⅲ 研究内容

- 1 学部研究の基本構想と共通理解
- 2 高等部作業学習における「育成を目指す資質・能力」を軸にした授業づくり
- 3 「できる状況づくり」の細分化
- 4 授業づくりシート等のさらなる活用と改善
- 5 研究のまとめ

Ⅳ 研究計画

月	期日、内容	主な内容
4	17 日 学部研①	・令和5年度前沢明峰支援学校全体研究計画（案）の概要について周知 ・学部研究の方向性について提案・協議
5	25 日 学部研②	・学部研究の内容、計画等について協議、資料の検討 ・授業研究会担当者（作業班）の検討 ・3観点に沿った各作業班の目標設定
6	2 日 全体研究会① 23 日 学部研③	・学部研究について全体に提案 ・できる状況づくりについてワークショップ
7	7 日 授業研究会①（中） 20 日 学部研④	・中学部の授業提案についての協議 ・9月高等部研究授業に向けた取組
8	17 日 学部研⑤	・9月高等部研究授業指導案、授業づくりシート作成
9	15 日 作業学習研究授業日① 20 日 学部研⑥ 21 日 授業研究会②（小）	・できる状況づくりと授業づくりシートを活用した授業づくりと授業参観 ・授業研究会 ・小学部の授業提案についての協議
10	19 日 学部研⑦	・11月高等部研究授業指導案、授業づくりシート作成
11	10 日 作業学習研究授業日②（学校公開授業研究会） 16 日 学部研⑧ 17 日 授業研究会③（高）	・できる状況づくりと授業づくりシートを活用した授業づくりと授業参観 ・授業研究会 ・高等部の授業提案について協議
12	21 日 学部研⑨	・11月授業研究会のまとめ ・授業づくりシートの検討 ・高等部研究アンケート
1	18 日 学部研⑩	・学部研究のまとめ、全体研究会資料の検討
2	15 日 学部研⑪ 22 日 全体研究会②	・全体研究資料の確認 ・高等部研究のまとめを提案
3	7 日 学部研⑫	・学部研究の反省 ・全体研究会を受け、必要に応じて資料の修正 ・2年次の研究内容についての意見交換、方向性の確認

Ⅴ 研究の推進にあたって

1 「育成を目指す資質・能力」を軸にした授業づくり

- (1) 高等部作業学習における「育成を目指す資質・能力」に沿った目標設定
- (2) 授業づくりシートの目標、生徒の実態、評価を「育成を目指す資質・能力」に沿って作成

2 「できる状況づくり」

- (1) 「ヒト（伝達と共感）」「モノ（道具と場の設定）」「コト（活動内容と展開）」の3観点で整理
- (2) 「ヒト（伝達と共感）」「モノ（道具と場の設定）」「コト（活動内容と展開）」を時系列で整理

3 授業実践と授業研究会

- (1) 授業を見合う作業学習授業参観日の設定（年2回）
- (2) 授業研究会でのワークショップの情報共有と授業改善

VI 研究の実際

1 「育成を目指す資質・能力」を軸にした授業づくり

(1) 高等部作業学習における「育成を目指す資質・能力」に沿った目標設定

前次研究で明確にした高等部作業学習における「育成を目指す資質・能力」【表4】について高等部で再確認し、令和4年度の作業班の目標についてワークショップを行い高等部作業学習における「育成を目指す資質・能力」を軸に考えた【図1】。

【表4】高等部作業学習における「育成を目指す資質・能力」

【知識及び技能】	作業の手順や道具の使い方を理解し、正確に作業する。
【思考力・判断力・表現力】	自分で考えて作業を進め、必要な質問や報告をする。
【学びに向かう力・人間性】	目標を意識し、仲間と関わりながら意欲的に作業に取り組む。

作業班【 縫製 】	
知識及び技能	- 作業工程を理解し、正確に作業する。 ④ 道具の名称や理解し、正確に作業する。 ⑤ 道具の名称や理解し、正確かつ手早く作業する。
思考力・判断力・表現力	3～4工程を自分で進める。 ④ 効率や安全を考え、道具を決められた場所に置く。 ⑤ 効率や安全を考え、道具の配置を工夫する。
学びに向かう力・人間性	- 次の工程を担当する仲間が作業を進めやすいように、規格通りに作業する。 - 目標を意識し、達成しようと意欲的に取り組む。

【図1】高等部作業学習における「育成を目指す資質・能力」を軸に考えた作業班の目標

(2) 授業づくりシートの目標、生徒の実態、評価を「育成を目指す資質・能力」に沿って作成

授業づくりシートで生徒について「実態」「単元の目標」「本時の目標」「評価の観点」【図2】、そして「成果」「課題」「改善案」【図3】について「育成を目指す資質・能力」の3観点で作成

した。

◎単元の目標	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
制作手順や工具、機械の使い方を理解し、安全、正確に作業する。	知識・技能 ・工具、機械の使い方を理解し、安全、正確に作業する。	思考力・判断力・表現力 ・作業の進め方や製品の質を自ら考え、必要な質問や報告をしながら丁寧に取り組む。	学びに向かう力・人間性 ・目標数を意識し、目標達成に向けて仲間と協力しながら意欲的に取り組む。
◎対象生徒について	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
実態	・工具や機械の使い方をある程度理解している。 ・安全に注意しながら慎重に取り組む。	・指示内容のある程度理解している。 ・自分から質問や報告をすることが難しい。 ・丁寧に作業を進めるスピードが遅い。	・具体的な目標は意識する。 ・目標数に向かって作業を進める気持ちは弱い。 ・仲間とのかかわりが苦手で少ない。
単元の目標	・道具の使い方を理解し、効率的に作業を進める。	・自分の役割を理解して作業を進める。	・仲間と協力して作成していることを意識する。
本時の目標	・正確に寸法を測り書きする。	・スピードを意識する。 ・正確に終わりがわかる。	・自分から次の工程の生徒に部材を渡す。
評価の観点	・差金を使い正確に書きをすか。	・自分の役割を理解し、積極的に活動したか。	・次の工程を意識し、自分から部材を運んだり、受け取りに行ったりしたか。

【図2】授業づくりシート目標設定部分

◎実際の活動と評価	活動（関する教科）	実際の支援	評価（実現した姿）
活動（関する教科）	ほぞ穴部分の野書き（数学、技術）	・2つの見本となる脚材を用意する。 ・野書きをする面が対象になる2種類があることを知らせる。	・自分で脚の組み合わせと向きを合わせて野書きをした。 ・ミリ単位の測定もスケールを使い正確に行った。
活動（関する教科）	塗装（技術、美術、数学）	・ムラや垂れが無いように刷毛に付いた塗料を十分に切ってから塗ることを伝える。 ・効率的に塗るために塗る面の順番を伝える。	・教師の説明を十分に聞き、塗料をしっかりと切りながら丁寧に塗装した。 ・角の部分など塗装が重複し濃くなる部分も気を使いながら塗装した。 ・自分で塗装する面を確認しながら正確に丁寧にいった。
◎単元を振り返って	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
○成果	・スケールや刷毛の使い方を覚え丁寧かつ正確に作品作りに取り組んだ。	・野書きを正確に行うことが得意であり、自分の役割であると認識している。 ・塗装をどうすれば綺麗に仕上げるができるのかを真剣に考え、使命感をもって取り組んだ。	・必要な質問や報告は教師に対してはしていた。
●課題	・大きな音や強い振動がある工具や機械に苦手意識がある。	・正確性にこだわる分作業スピードが遅くなってしまう傾向がある。	・次の作業工程の依頼など生徒間でできると良い。他生徒との必要なコミュニケーションが不足している。
改善案	・使い方や安全性を教師と一緒に確認しながら工具や機械を使用する。	・タイマーを使用するなど時間を意識できるように工夫する。 ・作業効率の良い工程や方法を教師と一緒に考える。	・必要な依頼や報告を慣れるまで教師と一緒に行う。 ・「誰」に「何」を依頼するのかを紙面で明確に提示する。
その他	自由記述 ・木工製作が好きで細部までこだわって製品製作に取り組んだ。 ・座面部の木目など組み合わせを考えながら丁寧に製品作りに取り組んだ。 ・その日の体調や気持ちの状態から開始が遅れたり、開始直後は活動できなかったりすることもあった。 ・万能板の製作に意欲的である。製図、切り出し		

【図3】授業づくりシート評価部分

2 「できる状況づくり」

（1）「ヒト（伝達と共感）」「モノ（道具と場の設定）」「コト（活動内容と展開）」を時系列で整理
より個に焦点を当てるために、「現在行っている支援」「今後行いたい支援」について時系列で考え【図4】、書き出したものを各作業班で確認し、共通理解した。

（2）「ヒト（伝達と共感）」「モノ（道具と場の設定）」「コト（活動内容と展開）」の観点で整理

引き続き授業記録シートを活用し、個人の目標、活動内容についての支援について『目標達成のために考えられる「できる状況づくり」』として「ヒト（伝達と共感）」「モノ（道具と場の設定）」「コト（活動内容と展開）」の観点で整理した【図5】。

現在（普段）行っている支援 場面設定「糸鋸で万能板の切り出し」 ※特に無ければ書かなくて良い			
	事前（授業前～導入）	事中（展開）	事後（まとめ～授業後）
例	予定の伝達、手順の確認、モデルの提示、場の設定 など	動作の補助、修正、出来栄の確認 など	成果の確認、改善点の確認、取り組みの状況のフィードバック など
ヒト （伝達と共感）	・作業内容を明確に具体的に伝える。 ・準備するものを確認しながら一緒に準備する。	・機械に不具合が生じた場合には機械の調整を教師がする。 ・難しい部分は助言したり、補助したりする。	・完成個数や精度を一緒に確認する。
モノ （道具と場の設定）	・今日の作業に必要な道具や材料を準備しやすい位置に置いておく。 ・時間内に切り出せるサイズや個数の型を準備する。	・必要に応じて、道具を追加したり、場を整えたりする。	・次の授業に必要な物を確認する。
コト （活動内容と展開）	・糸鋸での切り出す作業を担う役割について伝える。 ・必要に応じて糸鋸の練習をする。	・報告や質問はその都度するように伝える。	・スピードや精度の改善点を確認する。

今後 行いたい支援 考えられる支援			
	事前（導入）	事中（展開）	事後（まとめ）
ヒト （伝達と共感）	・一緒に目標数を確認する。 ・目標数達成を目指してスピード意識するように促す。	・一緒に作業しながら目標数を意識する声掛けをする。	
モノ （道具と場の設定）		・安全に配慮した治具の設定	
コト （活動内容と展開）	・準備するものを視覚的に提示する。	・自分で作業を進められるように手順票を用意する。	

【図４】「ヒト（伝達と共感）」「モノ（道具と場の設定）」「コト（活動内容と展開）」を時系列で整理

◎単元の活動内容と「できる状況づくり」				
主な活動	活動内容 （関する教科）	目標達成のために考えられる「できる状況づくり」		
		ア 精一杯取り組み始める状況	イ 首尾よく成し遂げられる状況	
		ヒト（伝達と共感）	モノ（道具と場の設定）	コト（活動内容と展開）
野書	・指金を使い、印をつける。（数学、技術）	・最初に印を付ける位置（方向）を一緒に確認する。	・扱いやすいサイズの道具を準備する。 ・見本を置く	・端材で練習する。 ・野書ができたら報告し確認する。
塗装	・脚部、座面、補助板の塗装（技術）	・丁寧な塗装の方法を提示する。	・部材にあった刷毛を用意する。	・端材などで塗装の練習をする。 ・ムラや垂れがある部分を一緒に確認する。
万能板製作	・型取り（数学、技術） ・切り出し（数学、技術） ・研磨（技術）	・一連の工程を最初に確認する。	・製作に必要な道具や補助具を準備する。	・補助する工程などをあらかじめ確認する。

【図５】「できる状況づくり」として「ヒト（伝達と共感）」「モノ（道具と場の設定）」「コト（活動内容と展開）」の観点で整理

３ 授業実践と授業研究会

（１）授業を見合う作業学習授業参観日の設定（年２回）

９月と１１月に作業学習授業参観日を設定した。それに合わせて、指導案の作成と授業づくりシートの作成を行った。

（２）授業研究会でのワークショップの情報共有と授業改善

作業学習授業参観日の授業参観を経て対象授業について学部で授業研究会を行った。ワークショップを行い、協議の柱に沿って意見交換を行った。ワークショップについては意見をまとめ【表５】学部研究会でフィードバックし、共通理解を図った。

【表 5】協議の柱に沿って意見交換を行ったワークショップの内容

各グループで作成したワークシートの内容		高等部研究部
1グループ		
	協議の柱①：生徒の働く意欲の引き出し方と意欲の維持の方法について	協議の柱②：目標（どこまで、いつまで、何個できるまで…など）の設定の仕方について
成果	○作業の種類 ・種類の多様な作業内容の設定 ・作業種目が多い。 ○明るい雰囲気 ・適宜励ましの声掛けをしていて生徒の表情から意欲を感じた。 ・雰囲気が良い ・指導者全体の雰囲気が明るく生徒の意欲が高まる。 ○喜び ・個にあった声掛け ・収穫の喜びが伝わった。達成感	○分かりやすい補助具 ・収穫に使うサイズの目安となる補助具を準備していたのは良かった。 ○具体的な目標 ・目標を重さで具体的に設定し、評価していて生徒もわかりやすい。 ・ピーマンの収穫するとき「ここまで」と決めて作業させたのは良いと思う。 ・始まりのミーティングの時に表に示しているのはわかりやすくて良い。
課題	・衛生面？種類が多いのでいろいろなものに触れる。	・スピードを意識させる工夫が欲しかった（ここまでを何時までに終わらせる…とか） ・除草の範囲と時間を生徒に事前に確認する。 ・「ここまで」声掛けが理解できているか。
改善策	・写真を定期的に映してビフォーアフターを見せる（草取り） ・今まで売り上げた金額の表示があると良いと思った。	・区域と時間を設ける。 ・除草の範囲と時間を生徒に事前に確認する。
2グループ		
	協議の柱①：生徒の働く意欲の引き出し方と意欲の維持の方法について	協議の柱②：目標（どこまで、いつまで、何個できるまで…など）の設定の仕方について
成果	・称賛の声掛け、感想を聞くことで気持ちの気づきを促し、意欲の引き出しにつながっている。拍手など。 ・頑張ったところを画像で見せたり、実物で見せたりして次の意欲に繋げている。 ・収穫、袋詰め、販売まで一連で活動することで達成感を得られやすい。	・一人でできる状況づくり、収穫サイズのガイド。 ・生徒のペースを把握していて、合わせた課題設定となっている。達成感があるようにしている。
課題		・ナスとピーマンのガイドを分ける。首にかける（両手がふさがっている）。 ・もう少しがんばればできるかもしれない目標を設定するとスピードアップにつながる。
改善策	・写真を定期的に映してビフォーアフターを見せる（草取り） ・今まで売り上げた金額の表示があると良いと思った。	・作業スピードを計測して意識させる。

Ⅶ 研究のまとめ（2年次研究における1年次の中間まとめ）

前次研究を受け、作業学習の授業改善に取り組んだ今年度の学部研究であったが、ここまでに述べてきた研究の実際を受け、1年次の成果と2年次に向けての課題を以下にまとめる。

1 成果

（1）高等部作業学習における「育成を目指す資質・能力」に沿った授業づくり

高等部作業学習における「育成を目指す資質・能力」について確認し、作業ごとの目標を高等部作業学習における「育成を目指す資質・能力」を軸に考えることで、単元や個人の目標についても3観点に沿って具体的に設定できた。このことで、作業班内の指導者間で目指す方向性が一致し、単元や個人の目標の整理と共通理解に繋がり、統一された指導につながった。

指導が統一されたことで生徒への支援や教材、教師からの指示が共通し、より安定した取り組みに繋がり、その中で生徒が主体的な活動に繋がった。

（2）個人に焦点をあてた「できる状況づくり」

授業記録シートの個人の活動内容についての支援を継続して「ヒト」「モノ」「コト」に分けて考えた。今年度の研究ではさらに「事前」「時中」「事後」の時系列で考え、より個に焦点を当てた実態把握と支援を考えることができた。一つの活動に対しての支援を時系列で考え細分化したことでより具体的かつ現実的な支援の共有につながった。

生徒への支援が充実したことで活動に見通しをもったり、一人でできる作業が増えたりし

て主体的な姿勢につながった。

（３）研究授業と授業研究会の実施

研究授業に向けて授業研究の対象授業だけでなくすべての作業班が指導案の作成と授業づくりシートの作成を行ったことで授業づくりの意識が高まり、授業づくりシートを活用した支援に繋がった。

また、授業研究会では対象授業の協議の柱に沿ってワークショップを行った。すべての班が指導案と授業づくりシートを作成したことで各班の授業や支援について具体例を出しながら意見交換し、対象授業だけでなくそれぞれの班の生徒一人一人の具体的な課題と改善点をイメージすることにつながった。

２ 課題

（１）シートの内容を日常的に記録、情報共有

研究授業に向けて授業づくりシートの作成に取り組んだが、日常的に記録しやすいシートがあるとよりよいのではないかという意見があった。また、授業づくりシートを作成担当は記載内容などを意識しながら授業づくりができたが、作業班内で情報の共有が不十分だった。

（２）個の「生涯にわたって学び、成長しようとする力」の共通理解と具体化

「育成を目指す資質・能力」に着目し個に焦点を当てた。「育成を目指す資質・能力」の中でも「生涯にわたって学び、成長しようとする力」に大きく関係するのが「学びに向かう力、人間性等」であると考えられる。このことについて高等部で共通理解し、生徒の実態把握と目標、評価、支援について「生涯にわたって学び、成長しようとする力」を意識した授業づくりにつなげる。

【参考・引用文献】

- （１）名古屋恒彦：「各教科等を合わせた指導」エッセンシャルブック ジアース出版社、2019
- （２）名古屋恒彦：わかる！できる！「各教科等を合わせた指導」 教育出版、2016
- （３）子ども主体の教育研究会：「各教科等を合わせた指導 ガイドブック 生活単元学習・作業学習の進め方 Q&A」 K&H、2009
- （４）文部科学省：特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編（上）、2019